

校長室より ～「新・山吹の風」 No.2 R6.4.22 ～

朝、校長室のブラインドを開けると、植え込みがきれいな庭がまず目に入ってきます。そして同時にいろいろな小鳥の声が耳に飛び込んできます。秋の小鳥はその色の鮮やかさが詠まれますが、春の小鳥はそのにぎやかで、おしゃべりしているかのような声がよく詠まれています。たしかにその声に耳を澄ましていると、固まった心が解き放たれていくように感じます。

百千鳥雌蕊雄蕊を囁くなり 飯田隆太



さて、1年生の皆さん、ライフスキル講座はいかがでしたか。講師の先生が皆さんのことをとてもほめておりました。ライフスキルとはどのようなものか、社会で生きる上で、どのような力が我々に必要なのか、色々な実践を通して体感できたのではないのでしょうか。

「心を開く」というのは、ほんの少し勇気が必要ですが、それを行えた時、魅力的な世界が広がっていきたりします。目の前の人大切な他者になっていく時、生きることの喜びが得られるというもの。人というのはよく「自分は相手からどう思われるか」で悩みがちですが、大事なものは「自分が相手をどう思っていくか」だと思います。「人を大切にする」「人を信頼する」という行為を積み重ね、己の心を真の意味で強いものにしていって欲しいと思います。

山吹やクラリネットで吹く校歌 幸恵

